令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立南小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	49.9	52.2	49.5	48.9	50.1
	本年度結果 偏差値平均	53.5	52	51.2	50.2	48	51
算数	前年度結果 偏差値平均	/	50.2	51.1	47.7	49.5	49.6
	本年度結果 偏差値平均	52.5	50.8	50.6	49.2	49.3	50.5
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	49.5	48.7	49.1
	本年度結果 偏差値平均	/	/	51.7	48.2	49.4	49.8
全体	前年度結果 偏差値平均	/	49.9	51.6	48.8	49	49.8
	本年度結果 偏差値平均	53	51.4	51.3	49.1	48.9	50.7

②学習環境分析 Q-U 【1回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点)							
	全国(点)							

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対県比)	60 (90.9)	61 (87.1)	/
本年度結果 (対県比)	67 (100)	65 (101.5)	67 (101.5)

④学習環境分析 Q-U 【2回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点)							
	全国(点)							

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語科(話すこと・聞くこと)では、言葉の対応に気を付けて話す(89.9%)、指示語の理解・丁寧な言葉で話す(79.7%)、敬語を正しく使い話す(57.7%)に課題があった。 ●国語科(読むこと)では、漢字の読みと構成・辞書の活用(73.8%)(77.8%)、漢字の読み・古典的な文章の音読(64.0%)に課題があった。 ●算数科(測定・データの活用)では、円グラフや帯グラフ(43.6%)、表と折れ線グラフ(50.5%)、表と棒グラフ(57.4%)表やグラフ(61.4%)、長さ・広さ・かさ(68.1%)に課題があった。 ●算数科(変化と関係)単位置量当たり、速さ(28.7%)に課題があった。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科(書くこと)の思考・判断・表現)では、条件に合わせて視覚を見つけ出して文脈に合わせて引用し、文章にまとめること(31.2%)に課題があった。 ●国語科(読むこと)の思考・判断・表現)では、人物の心情を情景描写から読み取ること(59.7%)に課題があった。 ●算数科(変化と関係)の知識・技能)では、数量が変わっても割合は変わらないことを生活経験と結び付けてイメージすること(13%)に課題があった。 ●算数科(数と計算)の思考・判断・表現)では、示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察する(39%)に課題があった。 ●理科(エネルギー)の知識・技能)では、日光は直進することを理解すること(22.1%)に課題があった。
【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて) ●「かたさのある学級集団」が1学級、「親和的なまとまりのある学級集団」が4学級、「拡散した学級集団」が1学級、「ゆるみのみられる学級集団」が1学級、「学級内の規律と人間関係が不安定」が1学級あった。 ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童の割合は、全体の6.4%であった。 ●学習意欲については、全国比よりも低い学年が3学年(第3・5・6学年)あった。	【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて) ●第2, 3, 4, 6学年の一次支援群の割合は1回目よりも高くなったが、第1, 5学年の一次支援群の割合が低くなっている。 ●「かたさのある学級集団」が2学級、「親和的なまとまりのある学級集団」が6学級、「ゆるみのみられる学級集団」が3学級、「学級内の規律と人間関係が不安定」が7学級あった。1回目は「かたさのある学級集団」が一番多かったが、2回目は「規律と人間関係が不安定」なクラスが一番多かった。 ●学習意欲については、全国比よりも低い学年は3学年(第3, 5, 6学年)と変わらなかったが、第6学年以外の学年は1回目よりも低い結果となった。

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】 (1)全教諭が「問いの探究」を意識した授業を実施し、全学級の児童が多様な表現方法で考えることのできる授業づくり・授業改善を行う。 (2)「伸び」の実感と意欲向上を大切に「計算・漢字検定」を核とした、基礎学力定着への取組を全校で実施する。	(1) ①各学力調査(NRT、全国学力・学習状況調査)の調査分析による実施把握と改善計画の立案 →全国比との差が顕著に表れている問題を解き、児童に必要な力や授業改善の視点で分析・交流を行う。 ②研究授業・研究協議を通じた「めざす授業」の共有 (「改善・協議の柱」の焦点化、1人年1回以上) ③授業観察を月1回継続的に実施し、全職員の授業力アップを目指す。 →参観シートを活用して参観、改善点を焦点化して振り返りを行う。 (2) ①各単元導入期における「既習事項の学び直し」実施 (授業と家庭学習とを連動させた「学びの土台づくり」・チャレンジタイムでの前学年の復習) ②計算「やればできるっ!」検定の定期的実施 (吾手分野に焦点化を絞った反復練習) ③「きいてねタイム」の実施 (低学年を対象に、四則計算や音読に困難さを抱えた児童を取り上げ、基礎学力の定着を図る)	(1) ① 6月・8月 ② 5月～2月 ③ 月1回 (2) ① 各単元前の家庭学習 チャレンジタイム週4回 ② 月2回 ③ 毎日(給食準備中)	・各単元末テスト平均値(全学級80%以上) →全児童の各単元末テスト平均値(通過率80%以上の児童の割合80%) ・南小アンケート 「多様な表現方法で考えることができる」(肯定的評価80%以上) ・計算検定合格率(80%以上)
【学級・学習集団づくり】 (1)「一人一人のよさや違いを認め合える学級集団づくり」を全学級で進める。	①Q-Uによる実態把握と改善計画の立案・共有 ②要支援群にいる児童(NRTとのクロス集計表のD、C-1に位置する児童)との面談実施・全職員による実態の共有 ③児童会による生活目標と学習目標の提示 各学級によるふり返りの実施 ④児童会、委員会活動、縦割り班活動を通して6年生主体となる異学年交流の計画・実施 →児童会主催で「学級自慢」を計画、実施する。 →学級・個々の「よいところみつけ」による自己有用感アップ	① 6月・8月 ② 9～10月 ③ 通年 ④ 通年 学級自慢3学期実施	・ハイパーQ-Uテストにおける学級満足度の数値(全国平均以上) ・自己有用感に係る児童アンケート 「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」において肯定的評価(90%以上)

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

【今年度の成果と次年度にむけた改善点】   ○単元末テストの学校平均は、国語85点、算数80点。「多様な表現方法で考えることのできる児童」は83%でも目標達成している。しかし、国を挙げて説明をする児童が少ないことが分かった。授業の中で児童に何を促して、どんな表現をさせたいのか、指導者が目的をもって授業を作っていく必要がある。   ○自分にはよいところがある」が73.4%、「よさを友達に認められている」が71%となり、目標値以下ではあるものの、4月と比較すると0.8%向上している。   ●学習意欲が中学年から全国平均以下になっている結果から、全職員の授業力向上に向け意識改革及び指導力向上が更に必要であるため、改善ポイントを絞った月1回の授業参観を継続して行う。また、低学年での基礎学力定着に向けた「きいてねタイム」の取組は来年度も継続して行う。   ●「規律と人間関係が不安定」なクラスが一番多いという結果から、来年度は、学びの土台である学級集団づくりを授業の中でも行って、全教諭が「分かる授業がクラスづくりの基本」「授業＝生徒指導」とらえ、「生徒指導の三機能を生かした授業」を目指し、個を大切にしながら指導を行うことができるよう学級集団づくりに係る研修の充実を図る。また、月1回学年会を開き、教職員の思いを児童に積極的に伝え、考えさせる中で、学年目標に向かって高まっていこうという集団の力を向上させていく。

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		新2年	新3年	新4年	新5年	新6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	53	54	53	52	51	52
算数	目標値 偏差値平均	53	53	51	51	50	51
理科	目標値 偏差値平均	/	/	51	52	49	50
全体	目標値 偏差値平均	53	54	52	52	50	51

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	英語
目標値 (対県比)	68 (100)	66 (100)	/